

第 65 回SSN勉強会

観察会に役立つ とっておきのグッズ紹介Ⅲ

松尾千鶴子（八千代市）

日 時：2014年12月17日（水）9：30～13：30

場 所：白井市立池の上小学校

講 師：新堀昌邦、内久根深雪、佐口美智子

参加者：会員 13 名

9:30～10:00

教室にて。池の上小学校の観察会の推移と今行われている観察会の様子の説明がありました。平成12年から続いており、現在は年に小3が2回、小4が4回実施しているとのことでした。

10:00～11:00

小3の観察フィールドである児童公園と木戸公園(学校の隣にある)に出て新堀さんと内久根さんに案内してもらいました。いろいろな樹木、草花の四季による変化を観察していること、また、子どもたちが見つけてくる虫たちを通して虫と植物との関係も勉強しているとのことでした。トチノキとベニバナトチノキの冬芽の違いを観察しました。トチノキの冬芽は、べとべととした固い皮状ですが、ベニバナトチノキの冬芽は、形が四角錐のようでべとついてはいませんでした。ハナミズキやサクラは花芽をいっぱいつけて春を待っていました。

11:00～12:10

教室にて。ムクロジの実の皮をペットボトルの水の中に入れシェイクして泡立たせ、あとで手洗に使いました。その後、ファーブルミニ顕微鏡を一人一台使って観察しました。セミの羽はステンドグラスのようにきれいだったし、ワルナスビの葉や茎にある星状毛もとてもきれいでした。アメリカセンダングサのノギにある逆さトゲ、ヨモギやヒヨドリジョウゴの葉の毛の違い等はとても興味深かったです。

12:40～13:30

佐口さんからSSNの今日までの歩みの簡単な説明の後、みんなで教科書を見ながら意見交換をしました。国語の教科書の中に理科の教材の内容ととても共通している記述があることに驚きました。学校の近くに公園があること、少し歩けば調整池や休耕田があることで生徒たちと安心して観察できる環境があることをうらやましいと思いました。また、16台のファーブルミニ顕微鏡が備品として備えられていることは素晴らしいなと思いました。

教科書はきれいな写真入やイラスト入りで詳しく説明されているけど、自然の中で本物を見て、触って体験することの大切さを佐口さんがおっしゃっていました。本当にその通りだと思いました。保全をする人たちがいて、この自然が守られていることも知ってほしいともお話になっていました。

